

富山県	射水市	NPO法人新湊カモンスポーツクラブ
------------	------------	--------------------------

予算額	14,974,280 円
------------	--------------

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	9 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	1 団体	4 団体	4 団体	0 団体

トップアスリート総数	1 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	名	名	1 名	名

アシスタントコーチ総数	2 名
-------------	-----

指導種目	バレーボール
------	--------

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ バレーボールを事業の中で選択したのは、市内のスポーツ少年団数及び学校部活動数、総合型地域スポーツの教室数を調査し、他種目と比較しながら選択した。(クラブ)
- ・ 中学校の指導回数が少ないため選手との意思疎通が難しい。対策として、レポートの提出によりコミュニケーションを図るよう試してみた。(指導者)
- ・ 小学生にはバレーボール以外のスポーツを取り入れ、バランスのとれた身体づくりの指導を心掛けている。(指導者)

◆成果と課題

[成果]

- ・ 指導する小学生たちが、バレーボールを楽しいと言うようになった。
- ・ 中学生の選手が競技力向上に目覚め、日々練習に対して真剣さが増している。

[課題]

- ・ 月毎の派遣先指導時間が少ないことから、競技力向上の姿が見えてこない。
- ・ 指導者から実力上位校を優先指導したいとの申し出があるが、巡回指導希望チームも多くあるため難しい。(成果を出すことに焦っている)
- ・ 予算の都合で派遣できないスポーツ少年団、中学校から不平等との指摘。

取組の名称	ストリートダンス指導者派遣による学校教育との連携				
趣旨・目的	ストリートダンスに代表される「現代的リズムダンス」は、学習指導要領保健体育編にて必修科目と示される中、学校教育現場にて実技指導する先生は不在である。教育現場のニーズに応えられるよう指導者の派遣及び指導者育成から、授業として自立した指導ができる環境づくりを目指す。				
内容	本年度は、射水市内の中学校及び高校、大学を対象としてヒップホップ等のストリートダンスを指導。中学校の授業では、生徒をグループ分けして課題曲を選択させ、各動作の練習から生徒自身が振り付けに工夫を加えたり、創作した動作を取り入れて、最終日には各学校のクラス毎に発表会を開催。高校の新体操部では、表現力やリズム感の修得を目的に、大学では指導者育成を目的にプロダンサーを派遣、実技指導した。				
対象者	射水市内及び近隣地域小学生～大学生、各学校教員	参加人数	6,450名	実施回数	129回
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラブが中心となり、クラブ指導者及び県内ダンススタジオ、大学と連携を図り、指導者育成に努める。(クラブ) ・ ダンスが初めての生徒が殆んどなので、まず楽しさを理解して貰うため学校側に生徒さんへのアンケートをお願いし、男子は男性歌手の曲、女子は女性歌手の曲を選んでいただき授業で取り組むダンスを決定。(指導者) ・ 指導者が指導しない授業の時間はビデオを提供し練習。(指導者) ・ 教諭が考えた単元全体の計画やねらいを明確にした学習カードをダンスの指導者に渡し共通理解を図った。(中学校) ・ 各派遣校担当者と事前打ち合わせを行った。(クラブ) 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロダンサーの高い技能による指導にて、生徒のダンスに対する関心が高まり、スポーツクラブで継続してダンスを習う生徒が増えてきた。 ・ 保健体育教師にとって「現代的リズムダンス」の指導内容や方法の一つ一つが研修のよき題材となり、教師の指導力が高まった。 ・ 生徒指導上の問題を抱える生徒や心を閉ざす生徒が、チームで努力し合う取組により、思いやりの心が育み、心を開放していく姿を目の当たりにすることができた。 ・ できる喜びを味わい、意欲的に授業に取り組むようになった。 ・ スポーツクラブと学校が連携できる環境づくりができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンス指導者の育成において、学校教員がプロダンサーの指導レベルまでいくのには程遠いような現状である。プロレベルまではいかなくても、学校教員を対象とした研修会の開催が必要不可欠である。 ・ ヒップホップとそれ以外のダンスの違いや動作の名前が覚えづらく、生徒指導上理解しておく必要があり、ソフト面の研修も必要である。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	5 校
---------	-----

コーディネーター総数	16 名
------------	------

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ グループディスカッションや考察の時間を取り入れ、各自工夫するよう促し実践した。(指導者)
- ・ 個人の技能を高める種目については、デモンストレーションをして同じように真似をさせる。(指導者)

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 体育コーディネーター派遣は、児童の体力技能の向上や教師の指導力アップに大きな効果を生み出した。
- ・ 体育コーディネーター派遣指導において、特に水泳(着衣泳)やスキーなど危険を伴う授業では、少人数で指導できるため効果的に授業を進めることができた。
- ・ 専門的な、技術やポイントを指導していただき、運動に対する意欲が高まった。
- ・ 男性教員が少なく、女性教員も高齢化等で実技指導が難しい現状において、体育コーディネーター派遣指導は大変ありがたい。
- ・ 低中高学年の2学級合同教室では、担任2名とコーディネーターの3名で指導することにより、体力や技能レベルに応じてグループ別に指導ができ効果的であった。
- ・ 教師は、年間計画を意識して教材研究を進め、新しい教材に取り組んだり、必要な道具等を備えたりすることができた。

〔課題〕

- ・ 学期により授業数が異なる。
- ・ 危険を伴う水泳(着衣泳)やスキーの授業では、危機管理の観点から複数のコーディネーターの派遣を要望される。
- ・ 体育授業が午前中1時間、午後1時間の場合、約1日拘束されるので、体育コーディネーター2時間の謝金では割が合わない。
- ・ 学期が始まってしまうと打合せ時間が十分にとることができない。
- ・ 複数の学校の指導は、各体育授業の活動目標がわかりづらい。
- ・ 各学校の各コーディネーターによっては指導方針や指導方法に違いがあるので、体育コーディネーター同志での情報交換の場が必要である。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 地域や学校の課題を再認識する機会となり、クラブとして出来る事、考えていくべきことが見えてきた。
- ・ クラブが事業を受ける事で、クラブの認知度も高まり、特長を活かした取り組みでさらなる可能性が見出せた。

〔課題〕

- ・ 学校行事が優先され、計画通りに進まない事があるため、事業計画の一部修正や、予算執行が柔軟にできればなお良い。
- ・ 一クラブ単独事業では事業実施エリア範囲が限られ、拡大できない。近隣クラブを含んだ連絡協議会のような組織で当事業に取り組めると、さらなるニーズへの対応や、指導者の活用・事業全体の充実が図れるのではないかと。